

平成26年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校 学校番号 27

I 自己評価

<p>1 学校教育目標</p>	<p>誠実にして強くたくましい心と身体をもち、心豊かな人間性と豊かな知識・技術を兼ね備え、創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。このことを実現するために以下の4項目を指導の重点として定めた。</p> <p>(1) 生徒の学習意欲を高め、確かな力を身に付けさせる教育の推進 (2) 生徒に軸足を置いた豊かな人間性を育てる教育の推進 (3) 生徒一人一人が帰属意識をもち生涯を見通した進路意識を高揚させる教育の推進 (4) 地域に開かれた信頼される学校づくり</p>
<p>2 評価する領域・分野</p>	<p>◇教育課程・学習指導</p>
<p>3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<p>【生徒対象のアンケート結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導に関する生徒へのアンケートでは、「先生は熱心に学習指導や生徒指導に取り組んでいる」という問いに対して90%(前年比+5%)、「先生は専門的知識が豊富で授業内容を信頼できる」という問いに対して88%(前年比-1%)、「先生は授業の教え方や説明がわかりやすい」という問いに対して84%(前年比+2%)が「あてはまる」と回答するなど、各教員が熱心に指導し、それを多くの生徒が好意的に受け止めている状況が見られる。 ・専門分野の学習に関する生徒へのアンケートでは、「(工業の専門分野を深く学ぶ)課題研究の授業は有意義である」という問いに対して90%(前年比+1%)の生徒が「あてはまる」と回答するなど、ほぼ全ての生徒が、工業の専門分野に興味を持って前向きに取り組んでいる状況が維持されている。 <p>【保護者対象のアンケート結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成面での保護者へのアンケートでは、「学校は、将来、地域社会で活躍できる人材の育成に努めている。」という問いに対して89%(前年比+2%)が「あてはまる」と回答している。 ・日頃の授業に関する保護者へのアンケートでは、「学校は生徒の理解を高めようと努力している」という問いに対して80%(前年比+12%)、「学校は授業を改善(わかりやすい授業、楽しい授業)しようとしている」という問いに対して77%(前年比+11%)が「あてはまる」と回答している。昨年度と比較して、今年度は、保護者の理解や満足度が大きく向上したことがわかる。 <p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記のとおり、本校の教育活動について、生徒と保護者の双方の理解度と満足度が高い状態で維持されており、さらにそれが徐々に向上している状況である。 ・この状況に甘んずることなく、今後も、より一層のレベルアップを図っていく必要がある。
<p>4 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>◇授業規律の確立 ◇授業改善(わかりやすい授業、楽しい授業の実現) ◇生徒の基礎学力の向上</p>
<p>5 重点目標を達成するための校内における組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の確立は、教務部と生徒指導部が連携して推進 ・授業改善は、教務部が中心となって推進 ・生徒の基礎学力の向上は、教務部と進路指導部が連携して推進

<p>6 目標の達成に必要な具体的な取組</p> <p>(1) 授業規律確立週間の実施 (本年度から新規実施)</p> <p>(2) 公開授業Week、学校公開日、教育委員会訪問、各種研究授業等の機会を活用した授業改善</p> <p>(3) 生徒の基礎学力向上のための朝学習(キャリアタイム)</p>	<p>7 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p> <p>(1) 生徒対象のアンケートの結果</p> <p>(2) 同上</p> <p>(3) 生徒の基礎学力診断テスト等の結果</p>	
<p>8 取組状況・実践内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業規律確立週間(全職員が協力して10月に2週間実施、その後も継続実施中) ・授業改善(わかりやすい授業、楽しい授業の実現のために全教職員が実践中) ・生徒の基礎学力向上のための朝学習(キャリアタイムの名称で年間を通して実施中) ・学習の遅れがちな生徒を支援し全単位修得を目指す取組(学習特別指導や放課後学習会を定期的に実施中) 	<p>9 評価視点</p> <p>①各クラスの授業規律が向上したか。</p> <p>②生徒を対象とするアンケートの結果が向上したか。</p> <p>③基礎学力診断テスト等の結果が向上したか。</p> <p>④成績不良科目数が減ったか。</p>	<p>10 評価</p> <p>A B (C) D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
<p>11 成果・課題</p>	<p>○「わかりやすい授業の展開」のために、各教員が創意工夫して授業改善を行ってきた。視聴覚機器の使用、現物提示、適切な教材の利用等の工夫もあり、昨年度よりも生徒が集中する良い授業が実施できている。その成果もあり、本年度の全校生徒に対するアンケートでは、「先生は授業の教え方や説明がわかりやすい」という問いに対して、84%(前年比+2%)の生徒が「あてはまる」と回答している。</p> <p>○毎日の朝学習(キャリアタイム)は定着しており、各生徒が点数を競い合っており、お互いに切磋琢磨するなど、学習習慣の確立と学習意欲の向上の一助となる場面が多く見られる。</p> <p>▲授業規律の確立については、10月に2週間に渡って授業規律確立週間を設けて、全教職員が協力して取り組んだことにより、改善の方向へ進んでいる。しかし、まだ一部のクラス及び生徒に、授業中の居眠りや私語などが見られるので、今後も継続的に取り組む必要がある。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の確立に向けた取組を、今後も継続する。 ・「わかりやすい授業の展開」のための授業改善についても、公開授業Week、保護者による授業参観、教育委員会訪問、各種研究授業等の機会を活用して授業改善活動を継続する。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成27年1月27日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善などの取組により、生徒と保護者の学校への信頼度が高くなっていることが素晴らしい。 ・授業を一方通行的なものせず、常に授業改善を図ろうとする学校側の姿勢は、高く評価できる。 ・授業規律の確立については、教務部(教育課程・学習指導)だけではなく、生徒指導や特別活動など、他の分掌とも協力して取り組むべきである。 ・評価をアンケートに頼ることは悪くないが、アンケートの数字だけではなく、特定の数値化された指標(例：学力テストの結果、朝学習の出席者数等)でも評価するべきである。 ・分かりやすい授業の実現のために、各教員が創意工夫して取り組んでいることがよく理解できた。 ・各教員の授業を大切にする姿勢は高く評価できる。

平成26年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校

学校番号 27

I 自己評価

<p>1 学校教育目標</p>	<p>誠実にして強くたくましい心と身体をもち、心豊かな人間性と豊かな知識・技術を兼ね備え、創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。このことを実現するために以下の4項目を指導の重点として定めた。</p> <p>(1) 生徒の学習意欲を高め、確かな力を身に付けさせる教育の推進 (2) 生徒に軸足を置いた豊かな人間性を育てる教育の推進 (3) 生徒一人一人が帰属意識をもち生涯を見通した進路意識を高揚させる教育の推進 (4) 地域に開かれた信頼される学校づくり</p>
<p>2 評価する領域・分野</p>	<p>◇生徒指導（教育相談）</p>
<p>3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<p>《アンケート結果より》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マナーや規範意識に関する指導を行っているかどうかについて「あてはまる」と回答した保護者は96%、生徒は95%で昨年に比べ5%以上向上した。このことにより、落ち着いた学校生活がおくれていると感じていることが分かった。 ・生徒をよく理解した生徒指導については「あてはまる」の回答が保護者、生徒とも97%あった。 ・教育相談、いじめ対応、体罰防止については「わからない」と回答している保護者が10%、生徒が8%ほどいる。 <p>《生活実態調査より》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつについて83%の生徒が「大切な行為」と回答しているが、10%の生徒は「親しい人にすればよい」と回答している。この傾向は数年変わっていないが、進んでする生徒は若干増えてきている。 ・携帯電話の使用について80%の生徒が「学校では電源を切る」または「持ってこない」と回答している。 ・授業には60%の生徒が「ときどき集中できない」「他ごとをしている」と回答している。 <p>《分析》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立について重要であると考えている生徒、保護者が95%以上であり本校の掲げる人間像と合致している。今後は、実践が伴い成就感がもてるように指導・支援していきたい。
<p>4 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>◇基本的な生活習慣の育成（欠席・遅刻指導） 校門で遅刻防止指導（20分指導）を行う。始業前チャイムの活用</p> <p>◇授業規律の徹底 私語、居眠りをさせない。指導の記録を「累積指導カード」に記述し関係する全職員で指導を行う。</p> <p>◇交通安全指導 自転車通学者に対し「傘さし運転」で登校しない、校門の手前で一旦停止する、定期的に二重ロック指導を実施する。 学年進行で交通安全教室を実施する。（自動車学校協力）</p> <p>◇身だしなみ指導 定期的に身だしなみ指導を実施する、身だしなみは全職員でチェックする。</p> <p>◇ケータイ指導 携帯電話の持ち込みには申請書を提出させる。ケータイ等の情報モラル教育は保護者と協力して指導、意識の涵養をする。</p>
<p>5 重点目標を達成するための校内における組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員による組織的な指導を展開する 生徒指導委員会、特別支援教育委員会、教科担任会、各学科・教科内会議 ・注意、指導記録を全職員で共有する。 「累積指導カード」に記載し指導の内容と経過を関係職員で共有する。 ・いじめに関する調査や研修を充実し、早期発見と未然防止に努める。 迷惑調査、いじめ調査、懇談週間、いじめに関する職員研修 ・授業規律確立週間の設定。

<p>6 目標の達成に必要な具体的な取組</p> <p>(1)全職員による「登校指導、交通安全指導、身だしなみ指導」を行い規範意識の向上を図り、あいさつを励行する。</p> <p>(2) 長期休業明けに主任による登校指導を率先して行い適応指導と8時20分入室完了の徹底を行う。</p> <p>(3)年7回身だしなみ指導を実施し、正しい姿で学校生活を送る基礎を築く。</p> <p>(4)累積指導を行い、日常的な生活習慣の確立と授業規律の向上を図る。</p> <p>(5)迷惑調査や生活実態調査、交通安全実態調査などを行い在校生の実態を把握する。</p> <p>(6)いじめに関する調査と研修を行いいじめの実態把握と早期対応を図る。</p> <p>(7)保護者との連携（学校メールなど）を図る。</p>	<p>7 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p> <p>(1)欠席や遅刻が昨年度より減少できたか 登校時の挨拶がしっかりできているか 自転車通学者が左側通行、並進禁止、二重ロック、傘さし運転禁止などのルールが守れているか</p> <p>(2)8時20分入室完了が守られているか 始業3分前準備完了が守られているか</p> <p>(3)身だしなみ再指導生徒が減少しているか 普段の身だしなみ規律が徹底できたか</p> <p>(4)落ち着いた雰囲気です授業に臨んでいるか 累積指導カードが指導の共通理解に貢献できているか</p> <p>(5)あらゆる活動で、担任・学科・学年・学校全体が連携して指導に取り組めたか 各種調査結果と生徒の実態にギャップが生じていないか</p> <p>(6)いじめの早期発見と対応ができていないか</p> <p>(7)学校の取り組みが保護者に伝わっているか</p>	
<p>8 取組状況・実践内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> 校門指導、交通安全指導を全職員で分担し自転車安全指導やマナー指導を行った。 授業日には風紀委員による交通安全指導、各クラスによるあいさつ運動を行なった。 のびのびプロジェクト（11月）や無事故無違反コンテストを通してMSLによるあいさつ運動を行なった。 学年会毎に全クラスの身だしなみ指導を行い統一した基準で規範意識を身につけさせた。 「累積指導カード」を活用し授業規律や規範意識チェックと担任、学科、学年と連携した生徒の指導育成にあたった。 本校の行事や啓発活動をメールにより保護者にも配信した。 生徒指導ニュースを介して生活規律の啓発や安全意識の高揚、職員の共通理解を図った。 	<p>9 評価視点</p> <p>①組織的に登校指導、身だしなみ指導を行うことができたか</p> <p>②欠席や遅刻を減少させることができたか</p> <p>③生徒は進んで挨拶できているか</p> <p>④授業規律が徹底できているか（私語、居眠り）</p> <p>⑤身だしなみを常日頃から整えられているか</p> <p>⑥学校全体での職員間の連携が取れたか</p> <p>⑦学校の取り組みに対し保護者の理解が得られたか</p> <p>⑧生徒向け職員向け生徒指導ニュースを介して効果的に啓発できたか</p>	<p>10 評価</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A B (C) D</p>
<p>11 成果・課題</p>	<p>○学年会を中心とした身だしなみ指導が定着し指導基準の統一と公平性を保つことができた。（再指導生徒が減少した）</p> <p>○携帯電話等持込申請制（許可制）にしたことにより、ケータイの規律（校内では使用しない）が定着してきた。また許可制とした事により、保護者と協力して情報モラルに対応する指導体制ができた。</p> <p>○11月までの欠席総数が1857人と約200人増加したが、遅刻総数は493人で昨年比45人減少した。</p> <p>○生徒指導ニュースの中に善い行いをした生徒を紹介する等マナーアップ意識の啓発をしていく。</p> <p>▲雨天時はほとんどの生徒が雨カッパを着用し「傘さし運転禁止」が定着してきたが、保護者に送ってもらう生徒が増え学校近隣での乗降があり迷惑をかけている。</p> <p>▲授業中に第1ボタンを外す等、授業規律が守れない生徒の指導が増加した。</p> <p>▲問題行動で、ケータイ関与率が異常に増加した。</p> <p>▲ツイッター等への投稿に対し、肖像権など人権に配慮することが意識できていない。</p> <p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>○全職員による登校指導、交通安全指導、身だしなみ指導を継続し職員の共通行動と生徒の基本的な生活習慣の維持を図る。</p> <p>○長期休業明けの主任による登校指導を継続し学校生活への適応化を図る。</p> <p>○凡事指導を徹底する。（日頃から軽微な問題行動も見逃さない。授業規律を確保する。職員の連携を高める。）</p> <p>○学年ごとの交通安全教室を積極的に実施し交通安全と交通マナーの一層の向上を図る。</p> <p>○MSリーダーズ活動、のびのびプロジェクトを活性化し、地域との連携、学校内外での規範意識や交通安全意識の向上を図る。</p>		

○携帯電話等の持込申請制を継続し、ケータイのマナーなど家庭と協力した情報モラル教育を推進する。

II 学校関係者評価

実施年月日：平成27年1月27日

【意見・要望・評価等】

- ・いじめの未然防止について様々な取り組みがされています。今後は情報モラル教育や相談を通して生徒の心をつかむことをしてください。
- ・いじめ対策は、目に見える成果をもたらすことが難しいテーマでだが、起きる土壌の問題、発生を見逃さない仕組みなどにより、フォーカスしたテーマとしたほうが知恵を絞りやすいと思います。
- ・核家族や家庭環境の変化に伴い生徒の成長に幅がでています。良い生徒もいます。難しい生徒に対しては学校生活、部活動、家庭での位置や役割など、どこかの分野で救われて欲しい。どの分野も愛情をもって見守る必要があります。
- ・各種アンケートの結果については傾向をみる程度でよいのでは、10%の差は誤差の範囲だと思います。生徒を指導する視点を重要視し、根本を見つめ次への具体的な対応へつなげてください。
- ・保護者による送迎は、諦めることなく継続してほしい。
- ・安全教育について、命を守るという視点での雨カッパの着用指導は評価できる。

平成26年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校 学校番号 27

I 自己評価

1 学校教育目標	誠実にして強くたくましい心と身体をもち、心豊かな人間性と豊かな知識・技術を兼ね備え、創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。このことを実現するために以下の4項目を指導の重点として定めた。 (1) 生徒の学習意欲を高め、確かな力を身に付けさせる教育の推進 (2) 生徒に軸足を置いた豊かな人間性を育てる教育の推進 (3) 生徒一人一人が帰属意識をもち生涯を見通した進路意識を高揚させる教育の推進 (4) 地域に開かれた信頼される学校づくり		
2 評価する領域・分野	◇進路指導		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・進路情報の提供や進路啓発、生徒の希望に沿った進路指導のために進路希望調査やガイダンス等を通してさらにきめ細かい指導を推進する。 ・今年度から取り入れた基礎学力テストの状況を分析し、本校に必要な学力やら実施すべき課題を明確にして取り組む。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇教務部や学年会と連携し、基礎学力を向上させるための学習活動の推進とインターンシップにおける全職員の協力による進路啓発事業の効果的かつ円滑な推進をする。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学年会および教務との密な連携 ・主任会での意見交換と連携調整		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 学び直しによる基礎学力や面接指導の強化 (2) 地元企業との連携によるインターンシップや校内での地域企業展等の進路啓発事業の実施	(1) 就職・進学希望者の内定・合格達成度 (2) 生徒のアンケートや感想文、企業の方の評価見届け職員からの報告からその効果を確認		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・外部講師による講話とガイダンスの実施をした。 ・就職希望者ガイダンスと進学希望者ガイダンスを複数回実施すると共に進学別面接指導の実施、ハローワーク主催の就職特別面接指導の実施をした。 ・2年生インターンシップ事業の実施と大垣地域合同企業展の開催によるキャリア教育の推進をした。 ・基礎力診断テストを3年生まで定期的に実施することと朝学習に基礎学力向上のための学習を取り入れ生徒の意識改革に努めた。	① 生徒の進路実現への目標設定に貢献できたか ② 面接指導等で、生徒の進路希望を成就させることができたか ③ 生徒の地元企業の活動に対する理解や職業観が深まったか ④ 学力補充による生徒の基礎学力向上に繋がっているか	A (B) C D (A) B C D (A) B C D A B (C) D	
11 成果・課題	○12月までには、就職・進学ともほぼ希望を叶えさせることができた。 ●求人倍率は全体で昨年よりも1倍近く増加し、一次試験不合格者数は13人(公務員含)とこちらも大幅に改善された。しかし、不合格理由の5割で学力の不足が指摘されるなど、基礎学力や日頃の学習の成果が問われており、学び直しによる基礎学力の向上が課題として残った。また、積極的なコミュニケーション力を重視するとはっきりと言われる企業や学校が増加していることも認知すべきことであった。 △進学希望者は、四大指定校希望者に学力保証を課すためのセンター試験等を義務化した。しかし、安易な推薦希望者はAO入試や一般入試等での受験で受験するようになったことが課題として浮かび上がった。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案			
○基礎学力向上のための診断テストを3年間通して計画的に実施し、その結果をもとに弱点補強や学力保証のための学習に繋げるための手法について検討し実施することで、学力保証に向けて取り組む。 ○外部模試や講師などを活用し、早い段階からの進路目標の明確化と生徒自らが進路実現に向けた努力をしたくなるような環境づくりのための講話やガイダンスの改善に取り組む。			

II 学校関係者評価

実施年月日：平成27年1月27日

【意見・要望・評価等】

- ・生涯を見通した進路指導が充実している。
- ・三年間の学校生活、学び方、希望や意志の強さなどで進路が決定します。悔いが無い決断を慎重に選んでほしい。
- ・いろいろな機会を通じて、企業が重視している生徒の資質について調査され、対応されていることは非常に評価できます。また、進路指導でありながら、基礎学力をきちんとつける方策を実施されていることも良いことと思います。
- ・重点目標あいまいと感じます。ここにある説明は目標ではなく、活動指針です。（活動することが目標ではない）加えてアンケート結果の分析では、“本校に必要な学力”とは何でしょう。明示的な定義がないと、教師、父兄、生徒で共有することが難しいと思います。また、“取り組むべき課題”とは誰にとっての課題でしょう。そもそも、3.は現状分析とありますが、現状分析することがゴールだったのでしょうか。今回の取り組みを始めるにあたり、現状を知るという意味であるのであれば、この表現には違和感を覚えます。
- ・今年度は、求人が多く就職内定率も上昇した。1年生からの進路啓発やインターンシップ、面接指導等が適切であったと思う。今後進学者の増加も含めた進学クラスの運営にも期待したい。

平成26年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校

学校番号 27

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>誠実にして強くたくましい心と身体をもち、心豊かな人間性と豊かな知識・技術を兼ね備え、創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。このことを実現するために以下の4項目を指導の重点として定めた。</p> <p>(1) 生徒の学習意欲を高め、確かな力を身に付けさせる教育の推進 (2) 生徒に軸足を置いた豊かな人間性を育てる教育の推進 (3) 生徒一人一人が帰属意識をもち生涯を見通した進路意識を高揚させる教育の推進 (4) 地域に開かれた信頼される学校づくり</p>	
2 評価する領域・分野	◇特別活動	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>・学校行事の充実について、保護者は9割近くが、「あてはまる」と回答し、生徒の回答も9割近くである。昨年の8割を上回ったのは生徒の積極的に参加する意識の表れと思われる。</p> <p>・部活動の活発さについて、生徒は9割5分以上が「あてはまる」と回答しており、変わらぬ充実度がうかがえる。保護者の「あてはまる」の割合も9割5分。昨年並みではあるが、「活発イコール結果」とは言い難く多くの部が全国大会に出場できるよう、特別活動部としても引き続き働き掛けと協力は必要であると思われる。</p> <p>・ボランティア活動の啓発・機会提供について、保護者は7割弱、生徒は7割強が「あてはまる」と回答している。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇豊かな人間性や自ら学び考える力などの「生きる力」や「活力」ある生徒の育成に努める。〈リーダーの養成〉</p> <p>◇生徒が自発的、自治的な活動を展開し、集団や社会の一員としての自覚を深め、自己を生かす能力が育つよう指導・援助を行う。〈所属感の高揚・自主的精神の育成〉</p> <p>◇ホームルーム活動を中心とした特別活動全般を通して、学校生活への適応及び円滑な人間関係の形成を図るとともに、人間としての在り方・生き方に関する指導を充実する。〈ホームルーム活動の活性化〉</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>・全職員による行事への参加体制を組織する。</p> <p>・生徒が自発的に活動できる機会を提供し、分掌外職員に呼び掛ける。</p>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>◇生徒会</p> <p>(1) 生徒会活動への積極的な参加・協力を図るため生徒会執行委員会・議会・各種委員会等の活動が円滑に行えるよう指導を行う。</p> <p>(2) 各種生徒会行事への積極的な参加を促し、生徒の学校・学級への所属感及び自発的・実践的な態度を育てる。</p> <p>◇特別活動</p> <p>(1) ホームルーム活動を通じて学級の一員としての自覚を深め、お互いを高め合う人間関係を形成する。</p> <p>(2) 部活動への積極的な参加を促し、達成感及び自己成就感を味わわせることで、自己を生かす能力を育てる。</p>	<p>(1) 生徒総会、球技大会、運動会、文化祭等生徒会行事を計画・運営し、円滑に進めることができたか。</p> <p>(2) 生徒総会、球技大会、運動会、文化祭等生徒会行事の取り組みに、充実感を覚えたか(アンケートによる)。</p> <p>(1) 球技大会、運動会、文化祭等生徒会行事に参加するなかで、クラス単位の取り組みに、充実感を覚えたか(アンケートによる)。</p> <p>(2) 年間を通して、部活動に積極的に参加したか。</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<p>◇生徒会</p> <p>・毎週月曜日に定例の執行部会を開き、各種行事に執行部が積極的に関わるよう生徒の自発的な活動を促した。また、各行事の進行原稿や壮行会等のマニュアル作りを生徒会の手にある程度委ね、運営させた。</p> <p>・毎週、火曜日から木曜日を「あいさつ運動」の日として、特活部職員・執行部員・各クラス議</p>	<p>①定例の執行部会を生徒が自主的に運営でき、各種行事が円滑に行えたか。</p> <p>②生徒のあいさつする習慣は定着したか。</p>	<p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p>

<p>員の当番で登校する生徒にあいさつを行った。 ・生徒総会、球技大会、運動会、文化祭等生徒会行事に、取り組んだ。</p> <p>◇特別活動 ・毎月の部活動実施計画・実施報告の速やかな配布・回収を行った。 ・部活動の成果をDaikou-svr（サーバー）で管理し各部署で利用できるような形態を工夫した。 ・部活動の表彰伝達・壮行会を執行部や応援団員の生徒の手で行うことで、生徒のリーダーとしての意識を高め、各部の努力を他の生徒にも知ってもらうことで、部活動への積極的な取り組みを促した。 ・各部の活動状況の報告をとりまとめた。</p>	<p>③充実感を覚えたか（アンケートによる）</p> <p>④部活動の活性化ができたか。</p> <p>⑤1年生の部活動全員加入を実質的に実現できたか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p>
<p>11 成果 課題</p>	<p>○生徒総会、球技大会、運動会、文化祭等生徒会行事を円滑に運営できた。 ○執行部の生徒達が、学校行事に関して自ら立案し運営するなど昨年度に比べて積極的に関わることができた。 ▲文化祭のあり方（取り組む姿勢）について、文化祭の本校での異議を再検討する必要がある。 ▲1年生の部活動参加については、部顧問に任せる部分が多いが、係としての関わりを考える必要がある。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>・学校全体で、特別活動に対する意義・目的を再度確認し、組織構成、人員配置、協力体制を確立する（生徒の成長という視点での学校行事の位置づけ等）。</p> <p>・部活動を3年間続けさせることに関しては、部員の活動状況の情報を共有し、クラス担任・科の職員を含め学校全体、多方面から部員（生徒）に働きかけをする体制を常態化する。</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成27年1月27日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の成長という観点に立った学校行事・部活動の指導は好ましい。 ・学校行事は生徒の心に残るものであるため、より一層きめ細かな指導を期待する。 ・特別活動は、「豊かな人間性の育成」「生徒自身の自主的精神」が目的であるため、活動の結果を計る術がどうしても定性的になりがちなか中、毎年の工夫を期待したい。 ・部の活動が各部によってばらつきがあると思われる。特に、文化系各部の活発な活動に期待したい。 ・授業以外の活動においても、生徒の才能を伸ばすこうした特別活動の「環境」を学校として大切にしたい。
--

平成26年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校 学校番号 27

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>誠実にして強くたくましい心と身体をもち、心豊かな人間性と豊かな知識・技術を兼ね備え、創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。このことを実現するために以下の4項目を指導の重点として定めた。</p> <p>(1) 生徒の学習意欲を高め、確かな力を身に付けさせる教育の推進 (2) 生徒に軸足を置いた豊かな人間性を育てる教育の推進 (3) 生徒一人一人が帰属意識をもち生涯を見通した進路意識を高揚させる教育の推進 (4) 地域に開かれた信頼される学校づくり</p>		
2 評価する領域・分野	◇「保健管理」「安全管理」		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・特になし		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生活習慣の確立と体力の向上 ◇健康・安全に関する教育の推進と事故の未然防止 ◇体育施設の充実と安全点検 ◇集団行動の徹底 ◇職員厚生の充実		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学校保健委員会 ・校内保健委員会 ・科内会議（養護教諭参加）		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 自己の体力等を把握し、適正な運動実践をとうして体力の向上に努める。 (2) 保健だよりなど必要に応じて、全校生徒及び職員に配布し、健康に関する情報提供や予防を呼びかける。また、うがいや手洗いの励行を促すとともに、教室や職員室に消毒液を常置し周囲を喚起する。 (3) 学校施設等を定期的に点検。 (4) 学校行事や全校集会等において、秩序ある集団行動を心がける。 (5) 職員研修会の内容の充実。	(1) 欠席数等の統計、新体力テストの結果データ (2) 健康診断結果、事後措置。 (3) 点検・修繕日誌、施設使用簿 (4) 集合整列の時間短縮 (5) 参加者の人数、活性化		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・生徒一人一人の能力、適正等に応じた指導内容の重点化を図る。 ・保健だよりを定期的に全校生徒に配布したり、健康に関する情報提供や川・海などでの安全行動を全校集会などで呼びかけた。また、うがいや手洗いの励行を促すとともに、職員室や教室に消毒液を置き注意を喚起した。 ・学校施設等を定期的に点検した。部室や器具庫の鍵の管理を徹底した。 ・学校行事や全校集会等において、秩序ある集団行動を実践した。 ・定期考査中に職員研修会を実施した。（2回）	① 適正な運動実践を通して、体力の向上に努めることができたかどうか ② 健康に対する意識を高めることができたかどうか ③ 施設を合理的、効果的に利用できたかどうか ④ 集団行動の必要性が理解できたかどうか ⑤ 職員間の親睦と活性化が図れたかどうか	A (B) C D A (B) C D (A) B C D A (B) C D A (B) C D	
11 成果・課	○定期的な保健だよりのほかに、文化祭で性に関するビデオ上映を行い、大変好評であった。 ○救急法の講習会の時期を夏休みの最後に行っていたが、環境整備と協議し、夏休み前に行うことによって様々な対応が出来るように心掛けた。 ○体育施設を定期的に点検し、事務室との連携により修理・補修することが出来		総合評価 A (B) C D

題	<p>た。(今年は体育館の防球ネットを修理した)</p> <p>○集団行動は、学校行事や全校集会等において、概ね時間より早く集合・整列しスムーズに進行することが出来た。</p> <p>▲新体力テストの経年変化は、2年生では長座体前屈以外、3年生では全ての種目で記録が向上した。また、全国平均を下回った種目は、2年生で握力・長座体前屈・シャトルランと昨年同様、3年生で握力・長座体前屈・シャトルラン・立ち幅、1年生は反復横とび・立ち幅跳び以外の種目とやや能力の低さを感じる結果であった。</p>	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力を向上させ、新体力テストにおいてレベルアップを図るために、カリキュラムの見直し、授業内容の検討を続けていきたい。 ・全校生徒・職員に対し健康に関する情報提供・予防の呼びかけを工夫し、健康に対する意識を高めていきたい。 ・部活動や施設の安全点検表を定期的に提出するようにし、事故の未然防止に努めたい。 ・職員の厚生活動を充実させ(期日・内容等)親睦と活性化を図りたい。 ・全職員による行事への参加体制を組織していきたい。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成27年1月27日

<p>【意見・要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康であることが一番大切なことです。是非啓蒙活動を継続させてください。また、安全は全てにおいて優先します。生徒本人の安全意識向上と、不安全行為の撲滅が重要です。設備点検と安全対策、通学や課外活動も含め、学校による安全対策と、生徒の安全意識向上を重点的にお願いします。 ・体も心も不安定な時期、十分なフォローをお願いします。 ・人数が多いため、体育施設や設備が不足気味であるかと思うが、定期的な点検・管理を望む。 <p>【意見・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭での性に関するビデオ上映は、先進的な取り組みであり、他校に広まるとよい。 ・目標、取り組み、評価指標、成果、課題とたいへんよくまとまっており、成果も確実に上がっていることが認識できました。 ・活動に意志を感じられます。こうした意志を持ったものだからこそ、成果も上がるのだと理解し、他のカテゴリーの模範と思います。欲を言えば、評価指標のままで素直に評価されてはどうか。
--

平成26年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校 学校番号 27

I 自己評価

1 学校教育目標	誠実にして強くたくましい心と身体をもち、心豊かな人間性と豊かな知識・技術を兼ね備え、創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。このことを実現するために以下の4項目を指導の重点として定めた。 (1) 生徒の学習意欲を高め、確かな力を身に付けさせる教育の推進 (2) 生徒に軸足を置いた豊かな人間性を育てる教育の推進 (3) 生徒一人一人が帰属意識をもち生涯を見通した進路意識を高揚させる教育の推進 (4) 地域に開かれた信頼される学校づくり	
2 評価する領域・分野	◇環境管理	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・保護者・生徒アンケートで「地震や台風などの場合の対応について生徒や保護者（地域）に対策マニュアルが知らされている。」に対し98%の生徒が肯定し、保護者においても96%が肯定しており、昨年度に比べ特に保護者への浸透率が大幅に上がっている。 ・生徒アンケートでは「施設・設備は学習環境の面でほぼ満足」が81%に対し「清掃が行き届いており校内がきれい」では、74%となっており、より一層の清掃活動が望まれる。 「ボランティア活動の大切さ教え、その機会を提供している」では、79%の生徒が肯定している。同じ質問に対し、保護者からの肯定的回答は69%で若干の開きがみられる。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇明るく清潔な学校生活（学習環境）を樹立していくために、全校生徒一人ひとりが美化意識を持ち、自覚ある行動がとれるよう推進する。公共物などを大切にすると、有効に活用できる技能を育成するとともに安全管理を徹底する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・分掌会議（環境管理部）→企画委員会→職員会議 ・環境美化係（環境委員会顧問）→環境委員会（各クラス1年生は2名、2、3年は1名）→全校生徒	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 清掃活動を教育の一環としてとらえ、授業と同様、挨拶からはじめ、しっかりと取り組み、きれいになったことの喜びを知ること、ボランティア精神を啓発したい。 (2) 防災訓練を通して、命の大切さを自覚させる。また、消防署と連携して訓練・研修の充実に努める。	(1) すべての清掃場所で整列・挨拶ができるようになったか。また、アンケートの結果より学校がより美しく整備されていると実感できるか。 (2) 防災訓練において機敏で命を守ることができるような行動ができたか。またそのような意識が植え付けられたか。アンケートにより成果が確認できるか。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・清掃活動への取り組みは年度当初にすべての職員に共通理解が得られるようお願いすることが最重要ととらえ、職員会議でお願いした。 ・地域清掃活動も天候に恵まれ、成果はあった。ただし、今年は地域の方々の参加は見合わせていただいた。（高齢者の方の健康に配慮） ・防災訓練、防災研修会は例年通り実施した。 ・安全点検の実施。	①清掃活動が、学校全体としてしっかりできたか。 ②ボランティア活動が充実したか。 ③非常時への心構えができたか。 ④安全点検表での実施は徹底できたか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A B <input checked="" type="radio"/> C D
11 成果・課題	○本年度のアンケート結果では「清掃が行き届いており校内がきれい」74%、「施設・設備は学習環境の面でほぼ満足」81%、「ボランティア活動の大切さ教え、その機会を提供」79%といういずれも昨年とほぼ同等の結果が出ている。しかし、清掃活動においては、これからも高い意識を持たせていきたい。 ○7月の地域清掃には、ほとんどの部活動が参加し、充実していたと判断する。 ○環境委員は清掃活動等よく責任を果たした。 ○年度途中からではあるが、安全点検表による安全点検を実施した。	
	総合評価 A <input checked="" type="radio"/> B C D	

<p>▲防災訓練、防災研修会は、予算の関係で外部講師による指導はできなかったが、職員が講師となり、実施することができた。</p>	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動への取り組みはよくなっていると感じているので、次年度も継承したい。 ・防災研修会は、熟知した教員（杉山先生）のもとに実施できたが、来年度については未定。防災訓練は避難訓練のみの実施。防災意識を高める工夫が必要。 ・救命法講習は多くの先生に参加していただきたい。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成27年1月27日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災ということからみた大垣工業高校の位置づけはどうか。災害発生時に大垣工業高校は避難所となるのか。また、避難所となった場合、生徒たちにボランティア活動をさせてはどうか。生徒の役割なども今後地域と話し合っては。 ・会社では、地域とのコミュニケーションは特に重要です。企業も地域との関係が上手くいかないと、操業が出来ません。是非とも積極的な関与と指導をお願いします。 ・一人ひとりの清掃、防災の意識向上を目指されていることはわかりました。 ・防災は、目標、取組み、評価指標、成果、課題と、成果を出していることがはっきりとわかります。一方で清掃は、目標に「・・・推進する」で結ばれていたり、取組みに「ボランティア・・・啓発したい」とあたりで大変分かり難いです。 ・ただし、地域での清掃活動はとても良い活動で、そこへ参加する意味を生徒に理解させてあげてほしい。尚且つ重要なことは、最初の挨拶だけではなく、最後に他の参加者への「ありがとうございました。お疲れさまでした。」と互いに言えるようになるなどの取組みだと思えます。 ・台風等の対応もメール等でわかりやすく、テレビなどで情報を見逃しても正確な開始時刻等がわかり学校へ問い合わせる事もなくなった。 ・社会においての環境も視野に入れ、考え学んでほしい。

平成26年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校

学校番号 27

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>誠実にして強くたくましい心と身体をもち、心豊かな人間性と豊かな知識・技術を兼ね備え、創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。このことを実現するために以下の4項目を指導の重点として定めた。</p> <p>(1) 生徒の学習意欲を高め、確かな力を身に付けさせる教育の推進 (2) 生徒に軸足を置いた豊かな人間性を育てる教育の推進 (3) 生徒一人一人が帰属意識をもち生涯を見通した進路意識を高揚させる教育の推進 (4) 地域に開かれた信頼される学校づくり</p>	
2 評価する領域・分野	◇ 渉外	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>《アンケート結果より》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度から地区懇談会に変わり学年懇談会を実施した。「実習棟の見学ができ、子供が実際に学習する環境が分かり良かった。」や「生徒指導・進路指導・修学旅行の話が聞けて良かった。」という意見も多くみられ全体的には良い成果が得られた。来年度は開催時期を学年によっては再考する必要も感じられた。 ・本年度は全国高等学校PTA連合会福井大会で文部科学大臣表彰を受けた。また、岐阜県高等学校PTA連合会「PTフォーラム」では教育長から感謝状を頂き、本校育友会は高い評価を得ることができた。 ・学校の施設・設備は、学習環境の面でほぼ満足できる。朝学習が継続し行われ、生徒が落ち着いた姿勢で取り組んでいる。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇ 育友会員（保護者）に、学校教育活動を通して生徒の様子や実態について正しい認識を持ってもらい、学校行事などで積極的な協力が得られるように努める。</p> <p>◇ 保護者との連絡を密にし、家庭や地域での生徒の健全な育成に努める。</p> <p>◇ 創立90周年記念事業に向けて学校と育友会が一致団結して取り組めるよう計画する。</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・ 渉外部職員の意識を高め、校内の各分掌と連携を図りながら、全職員の協力のもとで組織的に運営する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 育友会への参加を意味あるものとし、会員の出席が増加するように工夫する。</p> <p>(2) 学校行事への参加の在り方を工夫し保護者の理解を得て積極的な参加を促し、育友会の各委員会の活動をもっと積極的にする。</p> <p>(3) 渉外部として創立90周年記念事業が成功できるよう積極的に育友会へ働きかけた。</p>	<p>(1) より多くの育友会員（保護者）に育友会行事に参加して頂けるかが判定基準となる。（携帯メールの積極的活用）育友会の行事を理解いただき、各行事へ積極的な運営を促す。</p> <p>(2) (1)と同様</p> <p>(3) 創立90周年記念事業が成功できるよう工夫し、積極的に育友会としての参加できたか。</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ 育友会総会時に一年間の行事が印刷されたカレンダーの配布を行い出席率の向上を図った。 ・ 学年懇談会では、学年ごとに話題を生徒の成長や進路等直面する内容を踏まえた。結果、高い出席率となった。 ・ 育友会による文化祭バザーにおいて、生徒、役員の協力体制を前面にした取り組みをした。 ・ 事故発生時の適切な処置および全高P連賠償責任補償制度（生徒賠償責任保険、PTA管理者賠償責任保険）の全員加入をした。 	<p>① 2年前からの試みであったが出席率の向上には繋がった。</p> <p>② 事前の打合せや反省会にも多くの出席者が得られ、保護者からの提言や学校からの情報発信のよい機会となった。</p> <p>③ 育友会員（保護者）の多くの協力が得られた。</p> <p>④ 学校安全会という呼称で利用されている。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p>
11 成	○育友会総会時に配布したカレンダーは、僅かではあるが出席率向上に繋がった。予算等の関係から来年度はページ数の半減も考えたい。	

果 ・ 課 題	<p>○家庭と学校との連携が効率的で活発な場となり、相互理解と健全な生徒の育成に努められた。また、懇談会で話し合われた内容については、学校の関係分掌で再確認し、まとめたもので反省会を行い育友会広報誌（わかもり）で各家庭に配布した。</p> <p>○本年度は3年に1度の公開文化祭で、バザーについてはメニューを増やしたり、育友会役員との打ち合わせも綿密に行った。生徒の一部も保護者と一緒にバザー活動に参加し多くの成果が得られた。また、来場者も多く成功に終わった。</p>	<p>総 合 評 価</p> <p>A (B) C D</p>
------------------	--	---------------------------------

- 12 来年度に向けての改善方策案
- ◇育友会総会の出席率向上のために、過去数年において学校の特色を生かして工夫をしているが、変化が少ない。携帯メールやホームページを有効に活用してさらに検討したい。
 - ◇学校全般で携帯メールによる広報が活発になり、育友会に関しても継続的に進めたい。
 - ◇生徒の地域貢献活動に対して積極的な参加を検討している。
 - ◇来年度の創立90周年記念事業に向けて育友会と活動を協力し積極的に進めたい。

II 学校関係者評価

実施年月日：平成27年1月27日

- 【意見・要望・評価等】
- ・育友会活動の活発化が、保護者の学校や子どもの関心につながってきているのだろう。
 - ・育友会活動に対する保護者の温度差が大きいと思います。報告書にもあるように、携帯メールなどを使って展開・啓蒙を行う活動は、温度差を少なくし、みんなに興味を持っていただく手段として有効と思います。
 - ・保護者の理解を向上させ、育友会の活動をより充実させるかが課題であるため、携帯メールの利用やカレンダーの配布は、とてもよい活動だと思う。
 - ・強歩大会のあとの保護者による、振舞い(豚汁支援事業)も評価される活動だと思います。
 - ・文化祭の公開は3年に一度ですが、毎年やられてはいかがでしょう。
 - ・他の高等学校に比べても、本校の育友会はたいへん真摯に取り組まれていると思います。
 - ・地区懇談会から学年懇談会への変更は保護者が学校へ足を運ぶ回数も増え、学年ごとの課題も作りやすいと思う。
 - ・保護者へのメールを行事等もふくめ回数を増やすことで関心が増すと思う。
 - ・育友会、保護者の方のバックアップが生徒にとって力になります。やる気につながります。
 - ・現状分析や成果の判定において、生徒や保護者へのアンケート結果を重視することに抵抗感がある。同じ人に同じアンケートを続け、経年変化を見るならよいが、学校の場合は、進級・卒業で生徒が入れ替わっていくので、アンケートの対象者も変わる。
 - ・学校から、気象警報発令時や修学旅行などの行事の際に、授業開始時刻の変更や生徒の様子など、きめ細かく一斉配信メールが来るようになった。保護者にとって、学校と繋がっているという安心感が得られる。部活の成果などのニュースもメールで流してはどうか。

平成26年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校 学校番号 27

I 自己評価

1 学校教育目標	誠実にして強くたくましい心と身体をもち、心豊かな人間性と豊かな知識・技術を兼ね備え、創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。このことを実現するために以下の4項目を指導の重点として定めた。 (1) 生徒の学習意欲を高め、確かな力を身に付けさせる教育の推進 (2) 生徒に軸足を置いた豊かな人間性を育てる教育の推進 (3) 生徒一人一人が帰属意識をもち生涯を見通した進路意識を高揚させる教育の推進 (4) 地域に開かれた信頼される学校づくり		
2 評価する領域・分野	◇図書		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・特になし。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇心豊かな人間性の育成をめざし、読書環境の整備に努め読書指導に当たるとともに、生徒の主体的学習活動を支援する学習・情報センターとして図書館の施設・設備の活用と情報化社会に対応した図書館教育を推進する。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・図書館教育研究会の設置		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 朝読書週間および校内読書感想文コンクールの開催・「どくしょ甲子園」への応募 (2) 図書館管理システムや調べ学習などにおけるインターネットの利用など情報化社会に対応 (3) 図書資料・視聴覚機器等の充実	(1) 読書感想文の取り組み状況および外部コンクールにおける評価 (2) 書籍の貸し出し状況および授業等における図書館利用状況 (3) 各分野バランスのとれた蔵書の充実		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・新入生の図書館オリエンテーションを実施したほか「図書館だより」「新着案内」を発行 ・全職員および国語科の協力を得て朝読書と校内読書コンクール・「どくしょ甲子園」応募を実施 ・視聴覚室の管理、教材、機器の管理に努める	①図書館利用状況 ②生徒の取り組み状況 ③視聴覚室 視聴覚機器等利用状況	A (B) C D A (B) C D A (B) C D	
11 成果課題	○校内読書感想文コンクールおよび朝読書に対し全職員の協力が得られた。 ○国語科の協力も得て1年生全員と図書委員が「どくしょ甲子園」に応募した。 ○授業時や放課後等、学習・情報センターとして利用された。 ・▲利用している生徒が固定化する傾向がある。利用される書籍はライトノベルが中心で、読書の「質」の向上に向けた指導が、今後も必要である。 ▲予算が大幅に減額され、選書・読書指導に大きく支障があった。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	・生徒の視点に立った図書館運営と図書の充実を図り、生徒の読書意欲をより向上させる、魅力ある図書館を創造する。 ・視聴覚室の整備、視聴覚機器・教材の充実を図り、利用しやすい環境を整える。		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成27年1月27日

【意見・要望・評価等】 ・卒業後も読書は非常に大切。「どくしょ甲子園」への応募などの取組みは非常に評価できる。在学中に読書の習慣を身につけていただきたい。 ・読書コンクールの実施やインターネット環境の整備は大変有意義で効果を生むと思われる。図書館は、図書を通じて人間的成長を願うものであるもので、図書館を利用することで、こうなしてほしいという、メッセージを生徒へ発信することが重要。課題もよく認識されており、次年度の活動の期待大。 ・朝読書、読書感想文の取組みで、少しでも本に触れる機会が持て、今後も継続して取り組んでほしい。 ・一生涯学び続けるためにも、本や雑誌の知識・知恵を学んでほしい。

平成26年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校 学校番号 27

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>誠実にして強くたくましい心と身体をもち、心豊かな人間性と豊かな知識・技術を兼ね備え、創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。このことを実現するために以下の4項目を指導の重点として定めた。</p> <p>(1) 生徒の学習意欲を高め、確かな力を身に付けさせる教育の推進 (2) 生徒に軸足を置いた豊かな人間性を育てる教育の推進 (3) 生徒一人一人が帰属意識をもち生涯を見通した進路意識を高揚させる教育の推進 (4) 地域に開かれた信頼される学校づくり</p>	
2 評価する領域・分野	◇工業	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>《保護者・生徒アンケート結果より》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「外部講師の講演や体験活動など授業以外の学習の機会が多い」については、保護者は85%、生徒は83%があてはまるという評価をしている。昨年と比較すると保護者が18ポイント上昇している反面、生徒は6ポイント低下している。様々な機会を通して豊かな人間性を育てる教育を実施していることを理解していただいている。 ・「資格取得を奨励し、補習などによる積極的な援助」については、保護者の92%、生徒の96%が高い評価をしており、資格試験に対する日常の指導が理解されていると思われる。ただ、生徒の回答で、わからないとかあてはまらないと答えている生徒もいるので、今後は個々の指導を充実させ合格率も上げていかなければならない。 ・「安全教育」については、保護者の89%、生徒の97%が高い評価をしている。生徒は日頃の実習前の整列点呼時や実習中の教職員の安全教育指導に対して理解していると思われる。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇教科指導を通して職業観・勤労観を育成し、心豊かな人間性とたくましく生きる力を育てる。</p> <p>◇大垣市や地元の企業・教育機関との連携により、地域産業のニーズに応じた実践力と協調性のある人材を育成する。</p> <p>◇普通科と連携し、本校における全ての教育活動において、コミュニケーション能力等の幅広い学力の向上を図る。</p> <p>◇出前授業やものづくり体験等の企画運営を通して、地域や小中学校の児童生徒・保護者の工業教育への関心を高める。</p> <p>◇授業を通して安全教育を推進し、事故災害の未然防止を図る。</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>・工業部 → 学科主任会（課題研究、資格試験、産振設備備品出前授業、テコノコラボレーションの各担当） ↓ 学年部 工業庶務（渉外・会計・広報・大垣市との連携調整）</p>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 地域と連携した活動の推進</p> <p>① テクノ・コラボレーション ② 大工Day ③ 出前授業 ④ 大垣市との連携 ⑤ 地域イベントへの参加</p> <p>(2) 教育機関と連携した活動の推進</p>	(1) 各行事に参加した生徒の反応と感想 各行事で実施したアンケートの評価	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<p>・今年度の課題研究テーマとして、大垣特別支援学校の生徒たちの意見を取り入れながら、障がい者用教材の作成を行い、12月17日に贈呈式を行い寄贈した。</p> <p>・7月26、27日に「大工Day」を大垣市内3ヶ所の商業施設で、各学科および理科部や芸術部の参加により、作品の展示やものづくりなどを体験してもらえ活動を行った。</p>	<p>①他人を思いやれる心を育成し、「人にやさしいものづくり」を考える力を深化させることができたか。</p> <p>②生徒が外部の人と対応することにより、実践的なコミュニケーション能力が身に付いたか。</p>	<p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・西濃地区の小中学校の授業の一環として、本校の教員や生徒が講師となって授業を行う「出前授業」について、小学校1校・中学校5校・特別支援学校1校から申込みがあり実施した。 ・大垣市や各種団体の依頼により、地域で実施される地域おこしのまつりやイベントなどに、本校の部活動の成果の発表、ものづくり体験コーナーなどを設置し、地域の人達と交流した。 	<p>③小・中学生に対して工業高校への興味・関心を喚起し、本校の広報の一助とすることができたか。</p> <p>④生徒が外部の人と対応することにより、実践的なコミュニケーション能力が身についたか。</p>	<p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p>
<p>11 成 果 ・ 課 題</p>	<p>○地域や小中学生・保護者に工業教育並びに大垣工業高校への関心が浸透し、身近に感じてもらえるようになった。</p> <p>○大垣市や地元企業・教育機関との連携により、多くの学習機会を得た生徒たちが、実践力や協調性を学ぶことができた。</p> <p>▲活動が多岐にわたり、職員・生徒の負担が大きくなっている。また、生徒の学習や資格取得、課外活動などに対する取り組み姿勢など、大きな差が見られる。</p>	<p>総 合 評 価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界で活躍できる人材の育成を前面に出し、全ての生徒に対して実践的な力をつけさせる方策を充実させていくとともに、意欲的な生徒に対してはさらに高度な能力を身につけられるような場面を設定する取り組みを考える。 ・リーディングプロジェクトや飛び出せスーパー専門高校生などの各事業を通し、地域や企業・大学等の教育機関との連携をさらに充実させ、より多くの生徒が充実感と達成感を持ち、地域に対し本校がものづくり人材育成の場として理解され、積極的な後援を得られるようにする中で、ものづくりに強い興味・関心を持ち将来リーダーとして活躍する意識の高い優秀な人材が集まるような方策を検討する。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成27年1月27日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飛び専発表会で感じたように、生徒たちがものづくりの面白さ、楽しさを感じていることや、地域に関係して充実感や達成感を得ていることがうれしい。 ・日頃の生徒たちの安全意識向上と、不安全行為の撲滅に向け、強力な指導をお願いしたい。特に工業系の実習ではいろいろな危険が伴うので先生方も含めて安全教育をお願いしたい。 ・地域と連携した活動は、とても良いと思います。世代の異なる人の交流は、コミュニケーション能力のみならず、人間の成長を大きく促進してくれる。 ・活動を支援してもらうために、地元で働く卒業生にお願いする。 ・次年度の取り組みも明確に認識されており、より成果が上がることを期待します。 ・資格取得のための補習や部活動の取り組みを積極的に行い、受験者数や合格者数を増やしたい。 ・大工Dayなどは良いPRになっている。 ・技術進歩、専門教科は常に新しく。前進・発見の連続できびしい競争の教科でご苦勞も多い。
